

## 平成30年度 第1回 吹田市総合教育会議 議事要旨

日 時：平成30年8月30日（木）午前10時から午前11時35分

会 場：吹田市役所 特別会議室

出席者：後藤市長、原田教育長、谷口教育長職務代理者、大谷委員、和泉委員、安達委員、  
福田委員、春藤副市長

事務局：稲田行政経営部長、橋本学校教育部長、木戸地域教育部長、大江教育監、山下企画財政室長、古谷資産経営室総括参事、道場学校教育部次長教育総務室長兼務、  
植田学校教育部次長指導室長兼務、落地域教育部次長、生駒教育政策室長行政経営部兼任、橋本保健給食室長、由上教育センター所長、堀教育政策室参事企画財政室兼任、磯部保健給食室参事、曾我教育政策室主幹企画財政室兼任、大友保健給食室主幹

傍聴者：3名

配付資料：（1）これまでの協議事項

（2）学校教育施設の状況

（3）吹田の教育に関する分析 平成28年度版

（4）吹田市教育大綱

### [議事要旨]

○後藤市長 （開会のあいさつ）

○事務局 （これまでの総合教育会議の協議事項を説明）

○後藤市長 これまで9回開催し、ソフト面の問題、現場の先生方のご苦勞をどうお支え  
できるか、ということを中心に協議してきたと思う。その中で具体的に市として予算化  
してきたものもある。引き続き検討が必要と思われるものもある。今回は学校教育施設  
について今現在対応が必要なホットな話題、それから、将来に向けた議論をしたいと考  
える。

○事務局 （事務局より案件について説明）

○後藤市長 本日は学校教育施設の環境改善についてご意見を頂戴できたと思う。まず  
避けられないのがこの夏の暑さ、大阪では劣悪な環境になっているが、その改善の必要  
性についてその方法論も含めご自由にご発言をいただきたい。

○和泉委員 学校環境安全基準がこのたび改正された。学校保健安全法の公布からはもう  
50年になる。その当時から比べると、特に温度、室温といったものについては、気象環  
境が大きく異なってきている。各家庭にはエアコンがついている状況がある。一般的に  
気温が35℃、それ以上とかいうことはなかった。今ではそういった中、子供たちが学習  
するにはエアコンが不可欠である。普通教室にはエアコンがあるが、特別教室はまだで  
ある。これからの子供たちの教育環境整備を考えると、特別教室を含めた環境整備が喫  
緊の課題である。

- 福田委員 職場の国立大学でもエアコンはだいたい入っている。3年前の学舎の建て替え前には、最上階が屋根と一体化しているのでエアコンを18℃に設定しても室温は30℃だった。先進国の人々は人生の中でも80~90%を室内で過ごすと言われている。学校では多くは教室にずっと座って学習しており、生産性、集中力、生活の質の改善ということを考えるとエアコン設置はすごく大切なこと。法律の基準は最低基準ともみなされるので、そこを吹田としてどうかさ上げしていくのが大事な要素かと思う。
- 後藤市長 教育現場の直近の状況を聞かせてほしい。
- 事務局 1校で音楽室の室温を1時間ごとに測定してもらった。一昨日、報道では大阪の最高気温は34℃台だったが、音楽室は朝9時から35℃、午後には36℃。昨日は大阪の最高気温は35℃とのことだったが、音楽室は朝9時から35℃、午後には36℃が続く状況だったとのこと。音楽の授業は普通教室に回避し、鑑賞など内容を変更して実施。授業の進捗もあるため、来週には音楽室に戻したいとのことだった。
- 後藤市長 室温が30℃から35℃までだったら音楽の授業への影響はどうか。
- 事務局 このごろは集中が苦手な子供も多くなっており、集中力が途切れたり、私語が多くなったり、立ち歩きがあったり、さらには喧嘩に発展するような場合もあり、担任が対応に苦慮する場面もある。こういったことは音楽の授業だけではない。
- 大谷委員 いろんな子供の話を聞くと、特別教室で作業や実験だけして教室に戻ることがこの夏は多かったとのこと。PTAの集まりもなるべく涼しい午前中に、といってもなかなか集まりにくい。または汗だくで活動しておられる。この暑さは今年だけとは限らないと思う。
- 谷口職務代理者 診療所でも看護師が28℃では仕事ができないという。体感は違うが、高い温度では働けない、しんどいと言われた。音楽室も大事だが、図書室には読書活動支援者も入っている。子供たちにはじっくり本を読ませる環境が大事である。
- 後藤市長 特別教室は音楽室から多目的教室までまず10種類ほどあるが、優先的にここは必要というところをお伺いしたいが。
- 教育長 学校訪問で校長から声を聴いている。まずは音楽室、図書室。音楽室については、中学校は2教室のうち、1教室にはエアコンが設置されているのに、もう一方にはない状況である。両方生徒が使用するのに、設置のない教室では冬はストーブでは全体が温まらず、夏は扇風機でしのいでいる。図書室は快適な環境でこそ学力向上につながるということで、特にこれらの教室には設置が必要であると考えます。
- 安達委員 小学生の子供がいるが、特別教室にエアコンがないということで、この夏は心配して送り出していた。何よりも命に関わることであり、愛知県でも子供が亡くなるということがあった。下の子供が保育園だが、おそらく今は多くの保育園、幼稚園でも同様と思うが、暑いときは外に出さず、涼しいエアコンがある状況で遊ばせてもらっている。そこから1年生に上がった時に突然過酷な中に放り込まれるとなると、とても心配。音楽室、図書室でもそれらの活動に子供なりに結構体力を使っている。普通教室

と同じ環境で過ごさせてほしいと親として思う。

- 後藤市長 体重あたりの表面積は子供の方が大きいので、熱環境の影響は大人より受けやすい。実際、命に関わるような事態は避けなければならないのだが、その予兆がなんらかあると思うのだが、教育現場ではどうなっているのか、これまでないことが起きているのか、実態を教えてほしい。
- 事務局 今年に限ったことではないが、4月から夏場に近づくにつれ、教室の子供たちが鼻血を出すというようなことが見受けられる。だいたい担任の処置で終わる程度のものが多いが、中には保健室での処置を受ける場合もあり、複数校でそういう事例を聞いている。
- 後藤市長 のぼせる、ということだろう。室温が 26℃になるというような完全なエアコン設備をつけるとなると全校設置完了時期が相当遅れる。建築の専門としていかがか。
- 古谷総括参事 設計の立場から申し上げますと、本来ならば 28℃設定、湿度ならば 50、60%に計算して整備するのが普通。仮に半分に能力を下げると、それなりの室温になる。児童生徒に教職員を含め 41 人の代謝により熱が発生する。学習は軽作業として計算すると一人当たり 110w。全体で 4.7kw ぐらい。内部発生 of 空調負荷、照明、日光の赤外線等を足すと 7kw ほど。特別教室には 1 台あたり 7.1kw の能力のエアコンを 3 台設置する。計算上、熱を排出できないので、1 台だけ設置しても室温は変わらない、あるいは温度が上昇してくるといふ現象になるのかなと考える。外気温が 35℃とかであるとそれからまだ上昇してくると考えられるので、エアコンを特別教室に 1 台設置しただけでは効果は出ない。理論上ではそういうことがいえると思う。
- 後藤市長 フルスペックだと莫大な予算と時間がかかる。半分の仕様で室温 26℃にならなくても 30℃まで下げられるなら倍のスピードでできるわけである。3 分の 1 なら 3 倍のスピードでできる。来年の夏を見越して、こつこつと 10 年かけて増やしていった方がいいのか、理想形ではないが、エアコン 2 台と扇風機だったらどうか。26℃にならなくても特別教室へのエアコン設置のスピードを優先する、というのはどうか。
- 和泉委員 完成形にして物事を進めない。中途半端なことをして快適な環境を作れないければ、本来の教育環境の整備にはならないと思う。体感温度は個々人で異なるが、一般に人間の快適な温度はおおよそ 25℃のようである。特に体力的にも劣る子供について、快適な温度設定にすることが教育環境を確保していくということになると思う。気温が非常に上がってきた、そういう自然現象の変化に早期に対応することを行政として考えていくことが必要。早期にエアコンをすべての教室に設置していくことを考えるべきと思う。
- 大谷委員 和泉委員と同じ意見である。子供に対して良い室温、環境ということは学校の先生が一番よく知っていると思う。
- 教育監 31℃の教室を想像すると、教室の中でも暑いところ、涼しいところがあるだろう。その何度かの違いによって、教室の中がざわざわするきっかけになることもある。

そのことで余計に暑くなることもあるのかなと。普通教室は 28℃、特別教室は 31℃の場合、保護者から「校長先生、なぜ特別教室は 31℃なのですか。」と聞かれたときに、答えに困るだろうな、と。文部科学省が教室の環境は 28℃ですよ、と基準を決めているとすると、それが一番説明もしやすいし、保護者も一番納得しやすいのかなと思う。また、教職員にとっては職場なので、理科室が 31℃設定なら、理科の先生は 31℃の中で一日仕事をすることになるので、そのこともしっかり考える必要があると思っている。

- 後藤市長 普通教室と特別教室とは滞在時間の違いがある。整備に違いがあってもいいかと思うが、労働環境もそうだがある一定の限度を超えてはいけない、この環境以下にしないといけない、と幅があると思う。その狭間で揺れているのだが。風についてはどうか。
- 古谷総括参事 エアコンが入る前に天井扇を整備したが、プリントが飛んでいく、ということによく教職員から聞かされた。学習環境としてはエアコンの送風ぐらいが限界と考える。
- 福田委員 特別教室にエアコンを 1 台だけつけた後に、追加して 3 台にすると、改修費がもう一度かかる。トータルとして費用がオーバーしてしまう、という問題が発生する。モニタリングがまだできていない。一番厳しい状況の部屋だけでも調べてみる、また、設定温度が実際の室温ではないので、そういったことも注意が必要かと考える
- 安達委員 特別教室にエアコンを 1 台つけても形式だけで、「つけました。」と言われても、保護者としては納得できない。子供たちが危険な状況にされないような最低限を守りつつ、早く整備をお願いしたい。
- 谷口委員 パソコン教室には全ての学校でエアコンがついていることを考えると、少なくとも音楽室、図書室には早く設置してほしい。学校順という考えもあるが、現場の声もあり、まず音楽室、図書室、という方法もある。大変かもしれないが、現場の声、しかも学習効果が上がるということであれば、一つの方法かもしれないなど考える。
- 教育長 市長の、スピード感で早く決めたいという思いはすごく嬉しく思っている。音楽室への設置が中学校では 2 教室のうち 1 教室になっているので、そこは同じ条件でつきたい。まず必要性の高いところからエアコンをつけていただければと思っている。
- 後藤市長 教育委員会として必要なのは、将来計画。快適ゾーン、少々不快かもしれないが耐えられるゾーン、一時的には望ましくないが耐えられるゾーン、危険ゾーン。それが WBGT で何度なのか、データを。各教室について様々な調査を。その計画が立ってこそ、財政として予算をどうつけるのかとなる。それがあって実際の事業につなげていきたいと考える。行政経営部として説得力のある計画を出してくれると思う。
- 稲田行政経営部長 要求は学校教育部から上がってくると思う。認識としては喫緊の課題と思っている。大規模改造事業等もある。全市予算の平準化を図りながらできるだけ早く進めていきたいと考える。

- 後藤市長 ここからは、あと 30 分間、20 年後の教育を考えたい。特に衛生環境が大きく変わると思う。子供の体格も変わり、教室の大きさ、仕様、例えば黒板も。
- 福田委員 一人あたりのタブレット普及台数 1 位は佐賀県と聞いた。黒板はなくなるかということについては、怪しいと思っている。大学でもパワーポイントでの資料を配付していたが、画像を見て、聞いているだけでは知識の定着が追い付かない。ある程度書かせる授業も必要。吹田ではまだまだ ICT 活用の授業について進んでいるとはいえない。先生方も機器を取り合いの状態になっているということもある。そこからやっていく必要があると考える。電源の量が圧倒的に足りない。まず電源に関する考え方を。
- 安達委員 参観で、先生が子供の作品をカメラで撮ってプロジェクターで映す場面があり、今時はこんなこともできるんだと思ったが、うまく接続できずに授業が始まらなかったこともあったので、まだ導入したところかと思うこともあった。
- 谷口委員 阪大歯学部で新しい教室には、全てのテーブルに電源があり、天井にはモニターが 4 台ほどというのが普通になってきている。今後、中核市移行に当たって、子供が勉強していくには先生が弛まなく勉強し続けていくことが大事である。そのためにさらに教育委員会が準備していかなければいけない。より質の高い教育を行うにはより効果の高い研修事業を行っていかなければならない。これまでも教育センターで教職員研修を行っているが、一度で受講規模は 200 人くらいまでだろう。全教職員に行きわたるよう、例えば ICT を活用し、DVD で配信するというような方法も考えられるのではないか。ソフトウェアでいいものがたくさんある。道具だけ揃えるのではなく、インターネットを活用するなど、いつでも誰でも利用できるような工夫により、教職員の研修の充実が図れると思う。中核市になった後も教職員がより勉強しやすくなり、それが子供たちの学力向上につながるよう、教育センターも弛まなく努力しないといけないが、教育委員会としても、市としてもバックアップすることはすごく大きなこと。10 年、20 年先の子供たちに絶対いい影響が及ぶと思う。
- 大谷委員 バレーの外部コーチとして高校生と触れる機会が多いが、心の成長や自立といった面について不安に思っている。知識、体力、能力が上がっても、保護者もいろんな方がおられる中で、心の成長はどうなっているのかと。20 年後、30 年後のハード面も考えたいが、人間が人間を育てていくので、心の成長も考えていかないといけないと思う。
- 和泉委員 吹田は学力の向上をめざして先進的なことを取り入れてきている。しかし、学校現場で十分に対応できない子供が出てきたときに、全体の教育としてどのようにとらえていくのかも考えていかねばならない。心の問題をどうしていくか、ということだが、それは人間を豊かに成長させていくものではないかと考える。最終的には人間としての教育が大事なところである。どのようにして社会に貢献していくか、人間としての教育の原点であると考え。心の問題は 50 年、100 年経っても根本的には変わらないのではないかと。それをどのようにふ化させて一つずつ豊かな人間性を創っていくのか、大

きな問題としてとらえていくべきであると考えます。

- 谷口委員 新学習指導要領にもある「多様な他者と協働する」、そういうふうには教育していく公教育が必要ではないかなど。道徳でも他の人の痛みを自分で感じることを根本と思うが、そういったところが学校教育の本質と考える。
- 教育長 今後、働き方改革についてはいろいろな人を動員し、分担化していかないといけない。施設改修については、大規模改造、トイレ改修がまだの学校では、今回の地震や大雨があり、校長先生の生の声としては校舎が老朽化して不安に思っている。大規模改造は終わっても基本的に古いので、20年後30年後に将来的には建替えということで、今後児童生徒数を把握していく必要もあり、教育委員会の課題も多いと思っている。
- 後藤市長 最後にまとめだが、前半、教室の改善、これは喫緊の課題であり、到達目標、環境目標、時間の目標、しっかり実施計画を立ててもらい、それに沿って整備していただいたい。今後は体育館へのエアコン設置や、プールのあり方も無視できない。後半では学校現場の先生方がしっかり教育できる環境を行政側がしっかり整備しないといけない。教職員の働き方改革では、まず人数を増やさないといけない。国が増員等のサインを出しているが、府の動きも含めてしばらく様子を見ることから考えている。これについては市として動くものではないと考えている。今後も現場の声を聴いていく。校舎の建替えについては今後は全く仕様がかわると思う。標準仕様という考え方はあまり強く持たない方がいいと思う。2040年までに校舎の建替えは必ずあるだろうが、こういう議論はこれからも必要かと思う。
- 春藤副市長 この間、ブロック塀倒壊という痛ましい事故もあった。本日は中核市、働き方改革についても話題があったが、先生方の働き方も長時間働くことが「美德」となっているのではないかと。先生方の生活もある。一定のルールも必要ではないかと考える。子供の成長についても、昨今、二十歳の成人が一人の自立した立派な大人であると思われる人は少ないのではないかと。フリースクール等があるが、様々なルートで再チャレンジできる社会づくりを考えていかねばならない。校舎の建替えについては、将来的には少子化が見える中、公共施設の最適化をするのであれば、学校が地域の核として公共施設を学校施設に集約していくということも考え合わせ、市民の声も聴きながら行政として理想と現実をすり合わせていければと思う。
- 後藤市長 行政として先を見ながらお支えしていく、それが大事かと思う。教育委員会事務局には、出てきたご意見をしっかりとまとめ、消化していただきたい。またその返し、アウトプットをしていただきたい。本日は中身の濃い議論ができた。それでは、これをもって総合教育会議を閉会とする。